

MECC だより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第4号 2004年2月

- I 自治体での取組み……自治体の環境講座～武蔵野市と小平市……藤井健史・松島正・石田義彦
- II 講師体験から……環境カウンセラー新規登録者研修……藤井健史・糸井守
- III 国際会議 in ミラノ……地球温暖化防止国際会議(COP9)に参加して……御船直人
- IV 雑感……指導者養成セミナーで見た2つの対照的な風景……宇野哲夫
- V 会員紹介……川真田直之さん

～～～ I 自治体の環境講座～～～

環境に配慮するほど事業展開は有利になるという考え方が広まってきたのは、ISOの普及によるもので、その簡易版(EA:エコアクション等)が出回り出しました。現在MECCが進めているEAベースの中小事業者向け環境教育に関し、武蔵野市では、環境講座とグリーンパートナー相談会の例、小平市ではMECCの小平市在住会員が足掛け2年に及ぶ粘り強い働きかけで実現に漕ぎ着けた環境講座の例を報告します。

取組み1: 武蔵野市の環境講座

講座は11月11日と20日の2回にわたって開催され、合計で33社(35人)が参加しました。

環境経営とEA21の解説の後、小グループに分かれてEA21実施の実務演習を行い、最後に各グルー

プが作成した環境目標の発表を行いました。出席者は単に講義を聞くだけではなく、実務の演習を行った事でEA21を身近に感じたようでした。

藤井健史 記



取組み2: グリーンパートナー相談会

「グリーンパートナー」とは『環境を配慮した事業を行う事業者』を意味し、自分で目標を3つ以上設定、且つEA21(エコアクション)というプログラムに基づいて目標達成に取り組むものです。

武蔵野市が推進するグリーンパートナー事業の一環である相談会は、平成15年6月から月1回第2

金曜日の午後に市役所8階の会議室で開催されています。目的は、環境活動に取り組みたいと考えている市内の事業者に対し、武蔵野市グリーンパートナー事業や、環境省が推進している環境活動評価プログラム(エコアクション21)への届出・登録の相談に応じ、お手伝いすることです。12月末までに7

回開催し、来場相談事業所は延べ17事業所になりました。

1回の相談時間は約45分で、3回までは無料です。我々MECCのメンバーが分担して相談に対応しています。この相談会に来場したことをきっかけに、環境行動計画書を作成して、武蔵野市のグリーンパートナー事業のIIステップと、エコアクション21(EA21)に同時に届出して登録する事業者も出てきました。また個別にアドバイスを受けるためアド

バイザーの派遣を市に申請する事業者もあります。(個別アドバイスは、我々MECCが武蔵野市から委託されている)

武蔵野市は平成16年度もこの事業を継続していく予定ですので、我々もより一層レベルアップを心掛けて、来場する事業者の皆様のお役に立てるように努めていきたいと考えています。

松島正 記

取組み3：小平市の環境講座づくり

平成15年9月、中小事業者のための環境講座(EA21)を小平市において開催しました。これは環境カウンセラー側から積極的に働きかけて実現に漕ぎ着けたもので、今後他の自治体への先鞭となる貴重な体験となりました。以下その経過を述べます。

まず、お互いの人間関係に基づく信頼を築くことが重要で必要なことでした。このため、環境カウンセラーとして当地で協力できることを模索しましたが、当地に移住して6年と日が浅く、友人・知己もいないため、市民環境団体である「小平・環境の会」に参加し、ごみ処理問題・ごみ焼却施設改造問題等で多くの市民や市議会議員の方々と交流の環を広げました。また、市が催す「市民版環境配慮指針づくり エコダイラネットワーク」やフリーマーケット等に参加し、機会ある毎に市環境部に立ち寄り話をして、市当局との人間関係、信頼関係を一步一步着

実に醸成していきました。

この他に小平商工会に数回訪問し、環境講座への協力を要請し、快諾を戴きました。

この結果、平成14年に始まった環境講座開設への折衝は、平成15年4月に予算が確定。数度におたる打合せの末、平成15年9月、22社29名の参加をいただいて、無事終えることができました。関係各位のおかげをもちまして、ここまで漕ぎ着けられたことを心より嬉しく思っております。

市で作成して頂いたアンケート結果をもとに、今後もより充実した内容の環境講座を、皆様と共に広めていきたいと考えております。

石田義彦 記



～～～Ⅱ 講師体験から～環境カウンセラー新規登録者研修～～～

環境省主催「環境カウンセラー新規登録者研修」に MECC より藤井副理事長と糸井理事が講師として参加しました。

藤井講師は「MECC の設立以来の活動と講師自身の国分寺市における活動」について、また糸井講師は「レクレーションと河川環境保全保全の複合教育」について、午後の分科会「事例発表・事例研究」で発表しました。

日時：平成 15 年 12 月 10～11 日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

研修対象者：平成 12～14 年登録者で今まで受講していない人（東京会場では約 320 名）

プログラム：午前：全体講義「環境行政の動向」
「環境カウンセリングを取り巻く状況」
午後：分科会「事例発表・討議」

講師所感 同じ講座を 1 日 2 回、2 日連続、計 4 回行うのは講師にはいささか負担感、主催者側のプランニングに工夫の余地あると思います。また、カウンセラーとして実践的にリードしていくための計画策定やプレゼンテーション等の実践演習（スキルとマネージメント力）を取り入れたプログラムの工夫などが必要だと感じました。更にワークショップやディベード方式などの直感的に参画体験する方式も考慮していく必要を強く感じました。

～～～Ⅲ 国際会議 in ミラノ～第 9 回地球温暖化防止国連会議（COP9）に参加して～～～

ミラノで開催された COP9(2003.12.1-12)に、参加する機会を得ました。COP はリオ地球サミット(1992)を契機として、第 1 回(1995)ベルリン以来 9 回目になります。京都（COP3）で開催されたのは第 3 回で、各国の温暖化ガスの削減目標等を定めた「京都議定書」が提出されました。（COP9 の詳細→環境省等の報告・ホームページ参照のこと）

COP9 初日は、ハプニングの連続でした。早朝から大規模ゼネストのため、鉄道・バス・タクシーなどの交通機関がストップし、市内はマイカーで大渋滞でした。更に、折からのテロ対策のため、会場内に入るまで金属探知器など何重もの厳重なチェックを受け、ID カードを受領するにも長蛇の列。あらためて世界に注目されている国連の会議であることを痛感させられました。

会場内では国連関係者・各国政府代表・世界中の環境 NGO/NPO 等が集まり、処々で議論をしている姿が見受けられ、小部屋で、環境 NGO/NPO 等が意見交換会や勉強会をオープンに開催し、「京都議定書」の賛否や地球の将来を熱く論じていたのが印

象的でした。

滞在は冒頭の 2 日間だけでしたが、地球温暖化防止に向けた各国の熱気とロビー活動を体感することができ貴重な機会となりました。

次回 COP10(2004)は、アルゼンチンで開催が予定されております。興味のある方は参加されては如何でしょうか。

御船直人（財/鉄道総合技術研究所）記



~~~~IV 雑感～指導者養成セミナーで見た2つの対照的な風景~~~~

今回の神奈川セミナー(*)は湘南国際村にある生産性国際交流センターで行われました。相模湾と富士山を望む風光明媚、“申し分無し”の会場でした。屋内セミナーについては後日論評するとして、ここでは野外観察会での話です。

コースは、交流センターから湘南国際村の住宅地(何と山の頂上付近にある)を通り抜け「子安の里」を散策して立石海岸まで、約2.5kmでした。

「子安の里」は平家の落人部落とも言われている素朴な山里で、入った瞬間ほっとした気分になりました。落葉樹の雑木林の中にシイ・タブ等の暖地性常緑樹がかなりまとまって生えているので、冬とはいえ豊かな植生が見られるせいでしょう。

(皇太子ご夫妻がお忍びで見学された)炭焼き

小屋に足を伸ばすと、手前に子安の里、遠景に湘南国際村が広がっています。豊かさを感じさせる子安の里と比べ、湘南国際村にはまともな木が1本も見えず、山の上にただ家が並んでいるだけ。まるでシルクロードで有名な火炎山の頂上に住宅が並んでいるような感じです。

図らずも、2つの全く異なった世界が一望の下に見渡せ、人間が生活する環境とは何かを考えさせる見事なまでの風景が広がっていました。今回のセミナーの企画者はこれを見せたかったのかも知れません。

宇野哲夫 記

*:環境教育・環境学習指導者養成セミナーin かながわ(主催:神奈川環境カウンセラー協議会)

~~~~V 会員紹介 川真田直之さん~~~~

35年間、化学プロセス関連のエンジニアリングと開発に携わってきました。内容は大型の排脱や、大プロの重質油対策・石炭ガス化複合発電・地球温暖化対策技術等の開発、その他中小の環境対策技術の開発等でしたが、その後、国や自治体の調査活動に携わり、容リ法プラスチックの処理法調

査・LCAの普及・日本の環境対策技術の開発途上国への紹介等を行い、現在は企業のISO14001導入の指導や、地方自治体の新エネルギー導入の調査・基本計画作成に従事しております。MECCの活動としては武蔵野市や小平市の環境講座の推進、EA21の普及活動に取り組んでおります。

編集後記

前回3号を富川理事長と編集したとき、しきりに“編集ルールを作ろう”と言われてましたが、そのときは成り行き任せでいいのではないかと思っていました。しかし今回の編集経験では改めて“ルール作りはかなり積極的に作る必要性有り”と感じました。今の段階では会員からの忌憚りの無い意見の収集が最優先ですが、それでは話がまとまらない。そのためにもルールは必要です。但し日本人の生活習慣ではルールより、“そこに居合わせた人たちのその場での合意”を重視します。実はこれが何かと揉め事のネタになることが多いです。3月の定例会ではMECCだよりの編集ルールの話をしたいと思います。

宇野哲夫 記



発行者: NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
180-0014 東京都武蔵野市関前3-6-13-201 Tel&Fax:0422-52-5943
電子メール: tomi8mi@niftv.com